

令和5年度第1回葉山町総合教育会議 会議録

- 1 開会年月日 令和5年7月19日(水)
- 2 開会場所 保育園・教育センター会議室
- 3 出席者 町長 山梨崇仁
教育長 稲垣一郎
教育長職務代理者 小峰みち子
教育委員 鈴木伸久
教育委員 下位勇一
教育委員 清水衣里
- 4 出席職員 教育部長 中川禎久
教育総務課長 虫賀和弘
学校教育課長兼教育研究所長 濱名恵美子
生涯学習課長 守谷悦輝
関係者 長柄小学校校長 長谷川泰子
- 5 議長 町長 山梨崇仁
- 6 書記 教育部長 中川禎久
- 7 開会 午後2時00分
- 8 閉会 午後3時33分
- 9 協議事項 (1) 長柄小学校取組報告
(2) 学校の再整備について
(3) その他

(開会宣言)

教育部長) それでは、ただいまから令和5年度第1回葉山町総合教育会議を開会いたします。

時刻は14時ちょうどです。

総合教育会議は地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第1項の規定により設置され、同条第3項の規定により、町長が招集することとなっております。

また、本会議は地方公共団体の長と教育委員会という対等な執行機関同士の協議及び調整の場という位置づけであり、会議において調整がついた事項はそれぞれが尊重義務を負うものの、この場で決定を行うものではありません。また、地

方公共団体の長の諮問に応じて審議を行う諮問機関でもないことを申し添えます。

それでは、教育総合会議設置要綱第4条の規定により、町長は会議を招集し、その会務を総理するとなっておりますので、これ以降の進行は山梨町長にお願いいたします。

町 長) 皆さんこんにちは。

それでは、お手元の式次第どおり、会議を進めてまいりたいと思います。

協議事項(1) 長柄小学校取組報告

町 長) それでは、2の協議事項に入っております。今日は長柄小学校から長谷川校長先生にお越し頂きました。どうもありがとうございます。

それでは、協議事項1、長柄小学校取組報告でございます。よろしくお願いいたします。

長柄小学校長) 皆様こんにちは。長柄小学校の校長の長谷川です。どうぞよろしくお願いいたします。教育委員会には学校施設にいらしたときにお話しした内容と重複すると思いますが、今日はもう少し整理してお話しできればと思いますので、町長には初めてですので、ぜひよろしくお願いいたします。

まず、長柄地域の児童の特徴ということで、地域と児童の特徴をお話しします。保護者、地域、とても協力的な土壌があります。PTA、1人1役で学校に関わる仕組みがあったり、見守りの方もかなり立っていらっしゃいますし、そういう意味ではとても協力的な土壌です。また、家庭に守られている児童が多く、一定の学力の素地を持つ児童が多いように感じます。規則を自然に守れる子どもたちもおりますので、そのような風土も育っているのかなと思います。

その反面、その状況だからこそ、受け身的で指示待ちの多い児童が非常に多いと思っています。また、自律・創造的な力、対立に対する解決力の弱さは、子どもだけでなく、保護者にも感じるように思います。今日も電話が何本かかかってきて、お母さんたちの悩み、お父さんたちの悩みというほうが対応しているのが多いような気がしています。本年度の取組は今日この流れでお話をさせていただきたいと思っています。

まずは、学校教育目標の見直しをしました。昨年度、益田先生とずっと学校で、益田先生が校長先生だったので、この学校の学校教育目標を変えなきゃいけないよねということで、2人でよく話をして、今、南郷中学校と同じ学校教育目標にしています。南郷中学校は「考えて行動できる人」、小学校のほうが「考えて行動できる子」にしています。変化の大きな、予測困難な時代に対応できる子ども

たちを育てるのをまず考えようということ。学年目標と学級目標を全て「考えて行動できる子」にしました。今年度は。今までは学校教育目標から学年目標を作ったり、学級目標を作ったりということをしていましたけれども、もう目標の一本化、目標のための目標を作らないということで、この4月から取り組んでおります。3本の柱を中心に、この3本の柱で職員アンケートも取りながら、年間の中で変化を見ていきたいなと思っております。

もう一つ、組織力の強化ということで、チーム学校というのをきちんと確立したいと思っています。校内校務分掌の改革ということで、組織の改革を昨年度の11月にしました。4月から正式に採用して稼働しております。グループ制の確立によって、教員の参画意識は向上したと思っています。また、企画会議がちゃんと戦略会議化しているなという気もしております。組織的な総括教諭、若手教員の育成というの、グループ化によってかなり強められてきたなと感じています。

南郷中学校との合同校内研究というのも行っています。今、もう既に3回…4回ぐらい一緒に集まって話し合いをしました。とにかくまず総合的な学習の時間の学びを9年間つなごうということで行っております。今、これが単元シートです。9枚作っている最中で、これは完成形ではなく、これを実践しながら、よりいいものにしていこう、これを9枚つなげたときに、子どもたちの学びを9年間つないでいく様子が見えるのではないかというふうにやっています。特に、葉山の材を生かした児童・生徒の探究的な学びの追究ということで、助言に小田部英仁先生をお招きして、毎回先生たちもかなり熱心に論議をしております。

南郷中学校と英語の学習の連携も昨年度の末から始めております。中学校の英語の先生による授業を小学校でやってもらうのはもちろんですが、レシテーション大会を小学校でも行いました。行く行くは3年生、小学校3年生から英語学習をレシテーション大会につなげていきたいなと思っております。そして中学校ではレシテーションではなく、スピーキングに持っていけたら、スピーチに持っていけたらいいなということで、今、南郷中学校の益田先生ともお話をしている最中です。

思考力を伸ばす授業の追究も、ちょっと口を酸っぱくずっとしております。児童に問いを持たせる学びの展開ということで、各教室回って、子どもたちがどんな問いを持って授業をしているかというのを、私も日々、いろいろな教室を見ながら、先生たちと話しながら取り組んでいます。

また、教育総務課のほうからお話しいただいて、ベネッセ総研との合同研究というのにも乗らせていただくことにしました。思考力・表現力・判断力を教科横

断的に身につける授業を実現するために、そういう知恵をお借りして、いい授業をブラッシュアップしていきたいという取組です。

また、月1回の夜の校内自主学習会、ちょっと聞くと怪しいですけど。夜に先生たちが集まって、国語の勉強したいんですということ、私が国語が専門なんですけど、今、一度、月に1回国語の勉強会を開いています。大体20人ぐらいいつも来てくれて、そこで自分のクラスではこうやりましたとか、ああやりましたとか言いながら、国語の授業を探究的にやるにはどうするかみたいなことも、自主勉強会なんですけど、校長の圧力ではないと思うんですが、かなりたくさん参加してくれていて、勉強熱心だなというので、すごく学校の先生たちに感謝しているところです。

また、この4月から全学年教科担任制・交換制の導入をしました。教材研究の時間も短縮できましたし、指導の専門性の高まりも感じております。学年チームとしても指導がしやすくなりました。例えば6年生の場合ですね、家庭科は3組の担任、図工は2組の担任、社会は1組の担任が、体育、理科、音楽、英語については専科がついております。そうすると、本当の担任は国語と算数と自分の持っている教科と、総合を学年でやればいいということになって、かなり評価の面でも、自分たちで真剣に研究しながらできるというところで、専門性が高まるなど感じております。また、隣のクラスも自分の子どもというイメージを持ちやすいので、いろいろな課題がある子に対してもチームで対応できるというところのよさを感じています。もちろん保護者の方にも、この白い枠のように、学校だよりの中でお知らせして、皆さんにも協力を頂いているところです。

また、不登校、多様な背景を持つ児童への対応ということで、教育相談コーディネーターは2人体制を取っております。低学年の相談コーディネーター、高学年の相談コーディネーターという感じです。ケース会議も頻繁に行われています。相談体制としてはかなり充実してきているなというふうに感じています。

また、リラックスルーム、ほかではリソースルームと言ってるかもしれないですけども、本校は子どもたちがリラックスルームという名前にしたいということで、リラックスルームということで設置をしています。

リラックスルームへの期待と課題なんですけど、ここのリラックスルームにはやはり不登校児、困難を抱える児童の居場所として、今、機能しています。教室から、うーん、やっぱり勉強が嫌だっていって逃げてきちゃう子もいるんですね。その子たちがちょっとここで一息をつく。それから、おうちの中に閉じこもりっきりだった子が、週1回でも週2回でも、この部屋なら来る。あとは、この間も

そうでしたけど、保護者と一緒にこの部屋に登校してくる。そんな感じで、ここに、町にはヤシの実があるんですけども、ちょっと遠いので、学校の中に少しそういう対応ができる部屋が作れないかということで、去年の夏ぐらいから真剣に作り始め、今年は人を置いて、何とか校内の人事を采配して人を置いてやっています。学び方、参加の仕方を児童が自分で選ぶ場所として、ホワイトボードを活用し、1日の予定を自分で組んで過ごしております。

丸1日、今過ごしてる子は、今現在では今日は1人でした。ほかの子は行ったり来たりを繰り返して、教室で過ごしたりとかしています。今日の例でいくと、昨日お母さんが帰りが遅かったのかな、ちょっとさみしかったのか、めそめそめそって泣いて教室を飛び出してしまって、ちょっと隠れてたんですね、物の陰に。じゃあ、リラックスルーム行こうかって言って行ったら、そこでOBの原田先生、元校長先生がボランティアで来てくださってるんですけど、おばあちゃんと一緒にオセロしましょうって言ってくださって、オセロをしたらすごく機嫌がよくなって、何かそこできにこと遊んでいました。何か子どもたちがリラックスできる場所としていいなということで、今、支援員か教員が必ず9時から3時いるようにはしてるんですけど、子どもが多くなると対応し切れなくなって、そこで、今、8名のボランティアの方に自由に来ていただいて、対応をお願いしているところです。教員元OBが多いんですけども、逆にそのOBのおかげで子どもたち非常にオアシスのような場所をつくってもらって、いいなと思っています。ただ、課題としては、これを組織的に長い間、継続的にできるかという、この部屋の運営がひとつキーだなと思っています。今は、変な話、私が中心に人を集めてきて、そこに人を置いてというふうにしてますけれど、これが人事配置で私がいなくなった後もこの部屋を稼働していかなきゃいけないなというところが一つの課題だなと思っています。

コミュニティスクールとしての取組も今年度本格始動しております。合同学校運営協議会による学校運営の必要な支援と協議の充実ということで、地域の防犯・防災情報の共有というのもしています。この間、学区内のシンデレラ階段というのがあるんですけど、そこが崩れているという情報がここでも出されたり、水があふれるのはここだよなんていうお話とか、大雨が多くなってきているので、そういう情報の交換もしております。

それから、両校の行事の取組の報告や改善策の相談などもしています。PTA行事の参加の仕方ですとか、そういうのもかなりここで話ができている、有意義です。

あとコミュニティルームを作りました。地域活動推進員さんたちが週に1回ずついられる部屋ですが、本校のコミュニティルームの開室日には町内会長さんが来てくださったりとか、それから運営協議員さんが来てくださったりとかで、毎回盛況です。明日は開室日なんですけど、明日もまた、今度は社協の方かな、いらっしやいますということで、自然と人が集まってくるコミュニティーの場になっております。教育委員さんたちもぜひいらしていただければ。また開室日をお知らせしたいと思います。そこで学校の様子を見ていただいて、地域に開かれた学校というのをどのようにつくっていくかというのも、ここを中心に発信していけたらなと思っております。

また、地域人材と各団体との連携というのも、このコミスクでは非常に積極的に行っています。南郷中学校の例ですけれども、職場体験を、今、本当にこのコミュニティーの委員の人が中心にやってくさっています。また、リラックスルームの、長柄にリラックスルーム、それから南郷にも同じ部屋を作っております。リソースルームというふうにあちらは言っていますが。南郷と長柄のボランティアが兼ねてやってらっしゃる方が結構いて、ボランティアも行き来をしてくさってるので、その方たちの橋渡しですとか、あとは、長柄小でやっているんですけども、放課後の地域協働活動サポーターということで、学習支援みたいな、お勉強とかお遊びの会があるんですけど、そこには一応今のところだと、9月から逗子葉山高等学校の生徒さんたちがボランティアで来てくれるというふうにお話になっております。常時ではないんですけど、あちらの授業が許すところで、小学生と関わりを持ちたいという子が、小学生とお勉強に来てくれるということで、これは楽しみにしております。

今後の取組と課題としては、次期管理職候補、それから中堅教諭の育成が非常に本校では特に急務ですね。私の下からがどう育てていくかというところが、私もまだまだ若輩で、実は去年の校長先生と十幾つ離れてますので、世代が一気に若返っている感じがします。その中で若手をどう育てていくかというのが学校現場では急務だと思っています。

また、COCOOを導入させていただきました。委員会のほうでお金入れていただいて、学校連絡システムというのが入りました。これによって、もう昨日から稼働をしていますけれども、かなり連絡も入るようになって、取りやすくなっているかなと。今までは学校に来なかった子たちに、しょっちゅう職員室に先生たち来て電話をしてたんですが、それが結構なくなったので、非常に便利になっているなど、2日間でもう感じています。家庭との連絡もこれで体制強化できる

といいなと思っております。また、ベネッセのミライシードのトライアル使用をさせていただくことになったので、この夏休みからA Iドリルを子どもたちが使っています。これは先週の金曜日から子どもたちが入っているんですけども、もう自分で勉強を選んでやっている姿もあったりというところで、かなりの可能性は感じております。夏休みに使用しながら、夏明け以降にまた検討して、A Iドリルの有効性についても考察していかなきゃいけないなと思っております。

インクルーシブ教育指導体制、指導内容の見直しが一つの課題です。本校支援級が34名おります。6クラスあって。この子たちに本当に個別指導計画に合った教育がなされているかというところを、いま一度見直さなければなと思っております。また、ソーシャルスキルトレーニングなどの専門的な指導も入れて、支援級自体の授業もどのように確立していくかというのも一つの課題になっています。

児童の多様化に対応する相談支援体制強化と人材確保というところで、ここは先ほど言ったリラックスルームの件です。

施設の安全管理については、いろいろあります。ガラスにすぐひびが入ってしまったりとか、いろいろ、雨漏りもこの間少しありました。安全管理についてはこのまま先ずっと続けていかなければなと思っております。

あと、放課後の地域協働活動については、生涯学習課の方と一緒に相談しながら、非常に、どんどん需要が増えているので、供給をどうしていくかというところを相談させていただきながら運営を続けられればなと思っております。

以上、ご清聴ありがとうございました。

町 長) ありがとうございます。さっきの、ガラスにひびが入るといのは、何が原因でしょう。

長柄小学校長) 風とかでございます。

町 長) 今に始まったことじゃないということですか。

長柄小学校長) はい。今はガムテープでとめて、この間、教育委員さん来てくださって見つけてくださって、今、ガムテープでとめて、至急直そうとしてるんですけど。風が結構強いので。自然に劣化なんだと思うんですけども。

町 長) 新品に変えると問題はないですか。

長柄小学校長) そうですね。1枚高いんです。ガラス1枚、七、八万円。

鈴木委員) 線の入っているやつで、私もちょうど同じところを見たんですけど、半分から上がですね、両面に完全にひびが入っていますけど、校長に言って、落ちてくる可能性があるんで、一応ガムテープを貼りなさいということで。もう学校側としては手配をされていたみたいなので、あとは待ってる状態だったかな。

長柄小学校長) はい。

町 長) 分かりました。

鈴木委員) ただ、メッシュが入ってたんで、がしゃつと落ちるということは多分ないと思います。

町 長) それは子どもが触れる場所なんですか。

長柄小学校長) いえ、今そこはコミュニティールームの場所なので。子どもの場所はもっと急ぎますけれども。

鈴木委員) 棚との間で、少し若干距離があります。

町 長) 分かりました。対応はぜひよろしくをお願いします。ご報告ありがとうございました。

では、本件につきまして、まず、委員の皆様から何か質疑等あれば、よろしくをお願いします。下位さん、お願いします。

下位委員) ありがとうございました。指示待ちの児童なんていう話が最初にありましたけれども、私の会社ではインターンシップを最近では毎年受け入れてます。すごく真面目でいい子たちなんですけど、何も言わないと何もしないんです。ずっと座って待ってるだけ。知らない会社に来てるというのもあると思うんですけども、何か自分で探すとか、何をしたらいいですかって聞いてみるとか、というのがすごく大切だと思うんですけども、自分で考えて行動できる子どもが今後どんどん育っていくことを望んでいます。

あと、リラックスルームの名称について、先日も、ごめんなさい、伺ったかもしれないです。児童の発案なんです。すごくいいと思います。南郷中学校も先日、ちょっと所用があって行って来たんですけども、南郷中ではリソースルームという名前でやっています、たくさんの子どもがいました。常にその子たちがいるわけじゃないのかもしれないですけども、やはり授業中の時間にちょっと寄ってる子どもがいたりとか、授業が終わったら、10人ぐらい来たりとか、どういうシステムか分からないんですけど、必要な部屋なんだろうなと感じました。

あとは、8名のボランティアの方が協力してくださっているというお話がありましたけれども、どうでしょう、これ継続するためには何が必要ですか。予算措置が必要なのか。ボランティアさんだけに頼っていると、いずれ多分できなくなってしまうので、そのあたりの要望を教えていただけたらと思います。

ちょっと気になるのが、今、ボランティアの方々、元先生がいらっしゃるということで安心だと思うんですけど、この教室にくる児童はセンシティブな児童が多いのかと思います。そこに教育に関して素人の方だけが集まって何か子どもた

ちにしてあげる、となりますとちょっと不安を感じるので、そこは学校職員の方に何とか見ていただきたいなと思いました。

あと、コミュニティスクール、ぜひ行きたいと思いますので、お誘いいただければ。

長柄小学校長) 明日です。

下位委員) 明日。承知しました。ヤシの実が遠いのは確かにそのとおりですね。そこはちょっと考えなければいけないなというふうに思います。以上です。

町長) ありがとうございます。何かご意見ありますか。

長柄小学校長) 今の何が必要か、この部屋で。ボランティアベースでは運営できない部屋だと確信しています。必ず主になる教員が必要だと思っています。また、ボランティアもある程度教育に心得のある方でないと、学校と同じ方向を向いてやっていただける方でないとできないと思っています。ですから、非常にOB・OGはそういう意味では非常に大事な人材で、今、一番最高齢が85歳の村松先生です。ですけど、非常に助かっております。子どもたちと話をして。だから、そういう人材の改革も必要ですし、ここの部屋は必ずやっぱり教員が置いて、教員を置いて、ボランティアベースではないところで運営をしたいというところで、もう本当に、ここは今、ほかのクラスを削って置いてるんですけど、ここに人を置きたいなと。教員を置きたいなというのは、現場では切実に思っています。来年度以降どうしようかなというのは、また学校教育課と相談をさせていただきながら頑張っていきたいなと思います。

町長) ほかにいかがでしょうか。小峰さん、お願いします。

小峰委員) ありがとうございます。この前、学校へ伺ったときも、校長先生が積極的にいろいろな試みをされていること伺っていたのが大変印象的でしたし、校長先生が自信を持って新しいことに挑む姿に、多分ほかの先生方も一緒にやっという気持ちで、夜の学習会なんかにも表れているかと思いました。

今、私がお聞きしたいのは、子どもたち自身がこういう、長柄小学校で実施されている、コミュニティスクールというか、地域の方たちが子どもたちに関わってくださっていることとか、それから専科制、そういうことについて校長先生が今お感じになっている子どもたちの反応、子どもたちがどう受け止めているのか、その辺を教えていただきたいなと思います。

長柄小学校長) 私はまだ4月から3か月間ぐらいで、子どもたちに言い続けているのは、考えなさい、考えて行動しなさいしか言っていなくて、地域の人がどう入ってるとか、ボランティアがどうかというのは、地域にしか発信をしていません。学校だよ

りとかでしか。子どもたちには、まず子どもたちのできる目標を示していくというのが大事だと思っているので、そこは考えて行動してねというのは口酸っぱく言ってますけれども、あとは自然に地域が学校の中に入ってくるシステムを大人がつくればいいかなと思っています。子どもたちがあえて地域の人をお願いしますというのではなく、自然な形でいつの間にか隣におじいちゃん、おばあちゃんがいればいいと思ってるので、コミュニティルームは開いてるときはいつも開けておきますし、リラックスルーム来たらおじいちゃん、おばあちゃんがいるのも普通の形にしていきたいですし、そういう感じで子どもたちには示しています。特に学校をこう変えますよは言ってないんですけど、ただ、子どもたちの中で何か変わってきたのは感じていると思います。担任制も変わってますし、どんどんタブレットを使うようになってますし。ただ、子どもは変化に強いんですよね。非常に対応していると思います。

町 長) どうぞ、続けてお願いします。

小峰 委員) 例えば、その専科制になって、前より理科が好きになったとか、社会が好きになったとか、先生が替わることで、子どもたちは、ちょっとうれしいなと思っているのか、反対に、え、担任の先生じゃないのって思っている子もいるのかもしれない、そういう感覚はどうなのか。それから、地域の方たちが出てこられていることも…地域の人に、あ、こんなこと聞いてもいいのかなって思ったり、やって楽しいなと思ったりできているのか、その辺りは、まだ月日が短いので、なかなか実感として校長先生も捉えられるのは難しいところでしょうか。

長柄小学校長) 10月にアンケートを取ろうと思っています。子どものアンケートも。ただ、今、取組が始まって3か月ですので、子どもたちがどう考えているかまではつかめていないのが正直なところです。先生たち自身も戸惑いながらです。ただ、もっと担任の先生の授業がなくなるのは困りますという声上がるのかと思ったんですけど、全く上がらないので、そこは意外と受け入れられてるんだなという肌感覚で、まだ子どもに直接は聞いてないです。

小峰 委員) ありがとうございました。

町 長) ほかにいかがでしょう。では、お願いします。

清水 委員) リラックスルームの継続的な運営というのが重要だということは、実際に拝見して同感です。大変重要な部屋をわずか3か月で作ってくださって感謝いたします。視察後、鎌倉のフリースクールにご縁があって見学させていただきました。大変良い環境ですが、フリースクールはやはり有料という点もあり垣根は高くなります。公立の学校内に元教員の先生をはじめ地域の方がいるリラックスルーム

の存在の重要性をより一層感じました。現在、運営人材は校長先生の人脈で集めていらっしゃるわけで、校長先生がいなくなっても継続して運営する必要がありますが、人材をただ単にやみくもには集められないという課題を解消する必要がありますね。教育長も視察の際にノウハウを校長先生から共有いただき、全部の葉山の小学校につくっていったら良いとおっしゃっていましたが同感です。それが課題である中堅教師の育成にも関わってくると思います。校長の姿を見せていく。一般企業ですと定期的に研修があります。教員もありますけど、民間は研修中に、業務代行する人材がいる。しかし学校の現場は人手不足なので、代わりになる人がいない。その辺、校長先生にどうしたらいいですかと、聞くのもおかしな話ですけども。具体的に葉山でリラックスルームを全校にし、継続運営するにはどのような方策があるか、長谷川校長先生はお考えを持っていらっしゃる気がいたしますので、ご意見を伺えますでしょうか。

長柄小学校長) 正直模索中です。ただ、担当する教員もたくさんつくっていきなきゃなと思います。現場の中で私が担当しているのでは駄目だと思っているので。いろんな教員が担当しながら、参画意識を持ちながら成長していくというところが、またはほかの学校に移ったときにその人がやるということで。やはり長期的に人を育てるというのが、やっぱり、やってみて…OJTですね。やってみての育てしかないので、そこは必要だとは思っています。

人材については、フリースクールがかなり葉山の町には多いので、フリースクールの方が入ると逆にやりにくくなるなというところも少し感じています。今の学校教育ははそぐわない、学校批判みたいな考え方をお持ちのところもありますし、何かそういう理論が学校の中に入ってきてしまうと、学校の中でフリースクールができてしまいかねないので、やはりリラックスルームとしては学校の中の部屋の一部として位置づけたいなというところで、人選的にはやはり教育委員会や学校が主導的に選んでいかななくてはいけないんだろうなと思っています。ボランティアについてもですね、向こうから希望者を全て入れるというわけではなく、面接等をして、学校の意にちゃんと沿うようにというところでやらないといけないなと思っています。今、その時間が急務ですので、元先生に当たっているのが正直なところです。

清水委員) ありがとうございます。

町長) ほかにいかがでしょうか。

教育長) では、私のほうからよろしいでしょうか。

本来話が前後しますが、今回長谷川校長に長柄をピックアップしてお話し

してくださいというふうに依頼をしたのは、もう長谷川校長は去年まで長柄の教頭もやっていただきながらですね。いわゆる、南郷ブロックというふうには言っていますけれども、僕の感覚からいくと、9か年の連続した義務教育の中心核は、実は中学校ではなくて小学校だと思ってるんですよ。小学校のスタートの1年から6年までのところのしっかりとした、ある意味でレールにしっかりと乗せてもらったところの後のところの中学校というふうなところだったと思っていますので、その中での改革を明確に行っていただく、つまり、令和7年度に開校するのはもう命題として与えてありますので、その中で考えると、令和5年度の今年というのは、プレプレになるわけですがけれども、来年はもう本格プレになってきますので、今年のうちに一定の様々なところの先を見ながら、長谷川校長にはいろんな形で動いていただいています。

プレゼンの中の3ページに取組が全て書かれていますけれども、一番最後のページにも載せていただいておりますが、学校教育目標の見直しということが、今回のところで学校のほうにも教育委員の皆さんと行かせていただいたときにも、長谷川校長が考えて行動できる子という物の考え方をやっぱり学校の中にしっかりと落とし込むために、視覚的にも聴覚的にもしっかりともう取り組まれているというところがあります。こういうことをしっかりやっていく中で組織力の強化を図っていられて、これ、組織力の強化は当然教員の組織力の強化ではありながら、その中で巻き込んでいくのは地域であったり、保護者であったりというところが多分おありになると思います。そういう中で、長柄のところの改革の部分のところでは一番先頭に立っていただいている、パイロット的に動いていただいておりますので、今回は総合教育会議の中で、町長にですね、長柄小学校の取組の現状というものを、まずご理解いただきたいというところで、ちょっと無理を言いまして、忙しいと思いましたがけれども、長谷川校長にぜひお願いしたいというところでございました。

お話を伺っている中のところで、今言ったとおり、3ページにあったとおりの取組についてのところ、ずっとなめてお話をさせていただきましたが、私も校長やってきましたので分かりますが、あまり単純にできるものばかりではないんですね。長谷川校長ですので、大丈夫ですよって言いながらやっちゃってますけれども、意外とこれ大変な取組が多いです。

そういう中で、教員たちが、たまたま例の中で国語の自主勉強会のお話をされましたが、私も国語の教員なんです。私は高校の教員ですがけれども。前々から小学校の中で一番教科として教えるのが難しいのは何なんだという話を小学校の先生たち

に聞くと、国語だって言うんですよ。それを自ら何とか勉強したいんだって言い始めてる教員たちの集団ができてきてるといのは、自走してる部分の教員たちが生まれてきているのは非常にいいことですよね。これが違う方向を向いてるうちには、なかなかやっぱり学校の改革進まないと思うんですけども、教員の全ては実を言うと子どもに対してどう向かうかの中で一番の重要なのは授業力なんですよ、やっぱり。授業力に目が向き始めてるといのは非常にいいことだなというふうに、伺いながら思っていました。その中でも教科担任制のメリットも、やってみればやったほうがよかったねって先生たちが思えるようになってきていることであるとか、その中で当然、リソースルームというか、あのリラックスルームもそうですけれども、やってみた結果、子どもたちが安定したりしていくことで、先生たちが逆に安心をするという、この組織力の作り方というのは非常に重要なものだと思ってます。これは、変な話ですが、学校の組織というのは非常に組織のつながりが薄いところだと、これまでもずっと言われてきたことですが、一方、文科省はこれまでもずっと組織力を何とかしろというふうにお題目を立ててるわけです。ところが、なかなかそれがうまくいかない理由というのは、最終的には子どもたちの変容をどうすればいいかというところの力点が違うところに行ってる関係で、職員室がまとまっていけないということが多々あるんですね。長谷川校長、うまくそのところはしっかりと教員コントロールされていると思いますので、この感覚がうまく進んでいくと一定のところまでは、長谷川校長がおっしゃってたとおりの、一定のところまで進んでいくはずですよ。ただし、いなくなったときにというお話をされてましたので、ここが一つの肝ですよ。

一方、考えなきゃいけないのは組織力という、簡単に言うとサステナブルにどう動かすかについては、本当の組織力は、1人の人間の核がいなくなっても動くというものが本当の組織力なので、そのところを恐らく長谷川校長はこれからつくられていくんだと思ってお話を伺っていました。

リラックスルームの人員等々、これからどうしていくかについては、当然横須賀でもいろんな形でおやりになったと思いますし、県立高校の中ではインクルーシブ実践校というのが現在14校まで増えましたけれども、その中でスタートラインの茅ヶ崎が始まったときから、リラックスルーム、リソースルームは最初から設定してあるところですよ。そこには一体誰がいたのかという話ですが、長谷川校長言われたとおりの、基本は教員。ただし、教員は授業を持っていますので、全部のところに関われない。したがって、そこについたのは再任用の教員。再任用教員がやはりいいのは、何ていうんでしょうか、もう酸いも甘いもかみ分け

やっているので、あんまり焦っているいろんなことをしないということですね。若い先生たちはどうしても、子どもたちがその中で変わってほしいという思いが強いで、いろんなことさせちゃうんですね。させないという。本来の教員の今の在り方を…先輩たちを見習うべきところは、簡単に言うと、あんまり何もしないのに子どもたちが変わっていくのをゆっくりと見定めていくということができる人たちが、そこに関わってくださるのは非常にいいことだと思います。

元の逗子の教育長も来ていただいているということですが、本当にのんきにいろんなことを考えていただける方ですので、ああいう方々が関わってくれるのは、今後もそういう人たちをどうキープできるか。残念ながら今はですね、教員の数が少ない関係があって、実の臨時任用等々にそこに行ってもらうことが多過ぎるんですね。そうではなくて、本当は教員の数がしっかりいて、定数を通常の教員で満たしていけることがあるならば、今後のところでリラックスルーム的なリソースルームが各校にできたときにも、そこを見ると面倒を見てもらえる。

さらに言うならば、県立高校で言うならば、賃金については一定の賃金やっぱり払ってますので、そこについてのところは非常勤講師的などの部分でしっかりと雇っていけるような形にしてあげることが支援教育をよりよくしていく、さらに言うと、インクルーシブ教育をより学校の中に根づかせるための一つの方針になるかなというふうに思いながら話を伺ってました。

まだまだ開校まで時間がありますので、大変だと思いますし、校長先生にはですね、こちらから、来年度はというよりは、もう今年度の秋口には、令和7年度の開校に当たるところのカリキュラムを校内にフィックスしてくださいねという大変面倒くさい命題も与えてありますので、これは来年になりますと入ってくる子たち、新しく入ってくる子たち、それから在校生に対して、小中一貫校分離型とは一体何ぞやという説明をするという、これも義務的命題がございますので、そこもお願いしますというところでお話をしてあります。

そういう中で、安定的な授業体制だとか、支援教育を行っている、さらに地域の人たちとの関係性もできているという前提論がある中で、新しい教育を説明していくというのは、やっぱり非常に重要なことなんですね。うまくいってないところで無理やり何か変えようという、大丈夫なんですかって話になるんですけども、そうでない状況を現状つくっていただいている中のところで、課題は課題であるにしても、それはすごく何とかできるであろう喫緊の課題になっていくのが一番いいと思っていますので、もうお任せしている部分のところでは十分様々やっただいただいていると思いますけども、これから先もまたご尽力頂くこと

が多いと思います。大変だと思いますが、頑張ってくださいと思います。

町 長) ありがとうございます。鈴木委員、よろしいですか。

鈴木委員) 1つだけ。リラックスルーム、長谷川校長に言って、視察のときに見せていただいて、やっぱり6校ああいうタイプのものがきっちりあったほうがいいなというような感じになって、考え方として統一したほうがいいなど。

それから、今日も教育委員会定例会で言ったんだけど、やっぱり支援級の生徒の数の多いことにいろいろ驚いているというのが正直なところで、これ、リラックスルームだけで済むんだろかなと。ものすごい人数だなと。僕が教育委員を拝命した頃とは桁が違うなというのが正直なところなんで。これからは、あつという間に50人とかになってくると、もう1クラスとか何かの雰囲気じゃないんでね、若干心配しています。その理由が何なのかが分からないですけど。あまりにもそういう部分が多いのは、ちょっと気になるなというふうに思っています。

ただ、校長の取組としては斬新的な部分が多くて、今、教育長言ったように難しいし、大変だろうと思うんだけど、始めたんだからきちっとやって。お願いいたします。

町 長) ありがとうございます。ちょっと素朴な疑問なんですけど、リソースルームって一般的に呼ばれてるという話がありましたけど、何でリソースなんですか。リラックスルームのほうが適していると思って聞いていたんですが。

長柄小学校長) そうですね、子どもに教えられました。リラックスのほうが向いてるなど。リソースだと材料っぽくて嫌ですよ。非常に子どもたちの考えのほうが進んでいます。教えられました。

町 長) でも、一般的にはリソースルームと。それはなぜ。

長柄小学校長) そうですね。サポートルームとも言われます。

町 長) サポート、リソースの違い。

長柄小学校長) サポート、リソース、文科省が使ってる言葉ですね。

町 長) ああ、なるほど。分かりました。今、鈴木委員の話がすごく感じるころがあって、普通教室とは何ぞやという時代なのかなと思ってまして。35人学級と言いながら、結局35人学級でいろんなカリキュラムのことを言っていますけど、特別支援教室も含めてリソースルーム、リラックスルームが増えていってしまうと、結局元の木阿弥じゃないかなという気がするんですけど。個別指導はしたけど、その指導の枠に入らない方は別の教室に行くだけとかですね。人数減らして、教室増やしたけども、先生が追いつかないとかであればですね。だから、全てが総合的にうまくいくのが理想ですけども、結局こっちを押すとこ

っちが出てきて、こっちの対応しなきゃいけないという、何か、対症療法的な話にも聞こえるところがあります。なので、どちらかという、こういう仕組みをもうスタンダードにしてしまっていて、今でいうそのグレーゾーンとか特別支援というものがもう当たり前、それこそそれがノーマルなんだというふうに言ってしまったほうが話が早いんじゃないかなって気がするんですけど、いかがでしょう。

長柄小学校長) 授業の在り方を変えていかなきゃいけないところが根底だと思います。昔ながらの一斉授業がもう成立しないというふうに、先生たちに考え方を変えていてもらわなきゃいけないですし、受ける場所や受け方、個別最適化の学びってどういうものかというのは、教室の中に縛られたものじゃなくなってくると思うんです。そうすると、支援級とかリソースとか普通級とかいう壁がそれほど必要ではないのではないかというふうに、極論では思っていますけど。子どもは多分すぐ対応できると思いますが、親と教員と社会が多分ついていけないんだと思います。自分たちが受けた教育が一斉授業で、一方的に受ける教授型の授業だったので、そこは社会に相当のしごらみがあるなというふうに感じていますね。学び方も一斉じゃないと思っています。

町 長) 先ほど鈴木委員が最後におっしゃったように、もしかしたら今の社会じゃなくて、生物学的なもので、人間に対するその多様な、何か生物学的な話であるかもしれないけれども、一方で、その分類が、特殊性の分類が明確になった。そこにそれぞれの人権をとという考え方から多様性が生まれ、多様性が認められるようになってきて、だからこそ、その子に合わせたカリキュラム、だから支援級が必要で、リラックスルームが必要だというふうになったというふうにと考えると、昔から包含されていたあのことが顕在化したんだというだけだと言えると思うんですね。

それって、よく、先日も私もコラムに書いたんですけども、非認知能力を高めるには体験をしよう、今の時代は非認知能力を認めることで、まさに回帰するところは自立心を持って自ら考える人になっていくんだというアプローチをしていくと、むしろ、教育の在り方って今までとがらっと変わっていく時代なんだということ、親のほうも多くは自分も社会生活の中でそういう方々が仕事ができるのを見れば理解をしているんじゃないかなというふうに勝手に感じてるところがあります。

昨日も、協定をした会社の社長さんは、ご自身がおっしゃっています。数学しか好きじゃなくて、数学しかやってなかった。多分ある意味特殊な子なんです、

きつとね。そういう方が社会で活躍されてる姿というのは、親も一定理解はできる時代なんじゃないかな。そこは必要があるのであれば、葉山からそれを発信してもいいんじゃないかなと思っています。そういう可能性はこの町にはあると感じられていますか。

長柄小学校長) 半分半分です。町内会長さんとこの間コミュニティルームのお話をしたときに、いや、何せね、やっぱりいい高校、いい大学に行かせたいじゃないかと言うんですよ。まだ、おじいちゃん、おばあちゃん。おじいちゃん、おばあちゃんによって、支援級、何だそれというおうちもいっぱいあるんですよ。障害と言われることにまだ抵抗を持つ年代と一緒に住んでいることもあります。だから、そういうふうを考える、昔ながらと言っではいけないんでしょうけれども、ある一定の枠があることで、学歴があることで、地位があることで安心するという日本人がいるのも、一定数必ずいると思いますね。ただ、葉山の町の方は新しく物を考える方も多いと思います。転入者が結構支援級絡みが多いというのは、まさしくそれかなと思っていますし、葉山に支援教育を求めてやってくる転入者が非常に多いのは、確実にいるんだと思います。葉山小で教頭をやったときに、ひしひしと感じましたので。やはり葉山の町の中で新しい教育の在り方を求めていくのはいいなと思っているんですけど、それにはやはりいろんな取組をして耕していかないと、一気にはいかないなと。やっぱり宿題出してくださいという親がいるんですよ。先生がもう宿題では身につく時代ではないですよって言ったとしても、宿題がないと家で勉強しないんですっていう親がいたり、いや、でも、これ勉強しなかったら、中学で、高校で困るじゃないですかと言う先生だっているんですね。だから、やはり昔ながら受けた私たちの身につけている教育観というのは、ここが一つの壁かなと思っています。

町 長) 先ほどのお話のように、教員の中にもこの新しいものに挑戦する教員と、そうでない保守的な教員の方がいらっしゃるかと。

長柄小学校長) もちろんです。

町 長) なるほど。最後にしますけども、長谷川先生のその取組について、共感されている職員の方々は割合で言うとどれぐらいいらっしゃいますか。

長柄小学校長) 表向きはみんな賛同してくれてると思って信じてやっております。半信半疑となりながらも、何が正しいか分からないままですけど、今は前を向いて一緒にやろうと職場で思ってくれてると思っています。

町 長) そういう意味ではどうですか。何%ぐらいの方が、後継者として働こうとしているか。

長柄小学校長) 後継者として。学校をもう少し運営をする立場で、地域も視野も入れてということであると、まだ10%ぐらいかなと思ってますけど。やはり今、目の前の子どもたちと闘うこと、目の前の自分の授業をよくすることというのに、今、一生懸命になり出した教員が多いと思います。

町 長) 分かりました。ありがとうございました。皆さん、よろしいでしょうか。では、以上としたいと思います。長谷川先生、ありがとうございました。

協議事項(2) 学校の再整備について

町 長) では、続きまして、協議事項の2に移りたいと思います。学校の再整備についてでございます。こちらは教育総務課長からですか。では、虫賀課長、よろしくをお願いいたします。

教育総務課長) では、よろしくをお願いいたします。学校の再整備につきましては、前回、今年の1月の18日の総合教育会議の中で、これからの社会、その社会の変化に対してのこれからの学びというのをベースに、一度協議をしていただいているところでございます。ただ、その際にはなかなか踏み込んだ議論にはなっていなかった部分もありますので、本日につきましては、6月28日、議員懇談会で使わせていただいた資料の一部を使わせていただいて、改めて町長、教育委員の皆さんと協議をお願いできればと思います。よろしく申し上げます。

今回、議員懇談会の中で私どものほうから説明をさせていただいたのは、先ほどまで議論させていただいたような非認知能力であったり、自ら深く考えて行動する力であったり、そうしたものは鍛錬によって、しかもあの9年間の系統的な鍛錬によって、より育まれるという考えのもと、小中一貫校に最適な学校、具体的には、施設一体型の小中一貫校を教育委員会としては目指したいということ宣言させていただきました。ただ、どこの土地に、どの時期に、どんな学校を、あるいは、その意見、考え方に対して町民の方がどう思われているかという情報が提供できない段階での宣言になりましたので、議会から具体的な指摘はこの段階ではありませんでした。ただ、これまで教育委員会としては、令和7年施設分離型の小中一貫校をスタートという話はしてきましたが、施設一体型ということをお公にはっきり申し上げたことがなかったので、その点では一歩踏み込んだ話ができただけかな、説明ができたかなというふうに思います。

こちらは、教育委員の皆さんにも以前にご紹介したかもしれませんが、平成26年と29年に、小中一貫校の成果について、学習指導の面でも、生徒指導の面でも、教員の協働の面でも効果があるということをお議会にご紹介させていただきました。

それから、施設一体型の小中一貫校が分離型や隣接型に比べて満足度が高いという情報も紹介させていただいています。その上で、今後の大まかな流れについても説明をさせていただきました。教育委員会としては施設一体型の小中一貫校が望ましいと考えているんだと。今後についてはどの敷地に建てるのか、そうしたことを具体的に幾つかのステップに分けて検討していきたいということをお話ししました。

具体的に、下の段に書いてある町議会の説明のスタートが6月28日になります。

2点目、将来の公共施設、学校を含む公共施設を考える意見交換会を、町長にもお力を借りまして、7月26日上山口から意見交換会をスタートしたいというふうに考えています。全部で7回、地域内で実施したいと考えております。

それから、学校運営協議会でも議論をスタートさせていただいています。長谷川校長の長柄でも、南郷中と長柄の合同のところ、今後こういうことを検討していきたいということをお話ししています。学校運営協議会のメンバーの中には、保護者を中心にものすごくこういう、新しい学校であるとか、学びに関心の高い方々もいらっしゃいます。そういう方々とは、できればこれからの学校を考える上で具体的なイメージを持っていただきたいので、先進的な施設であったりとか、そういう視察に行ってみたりとか、機運醸成を様々な形で働きかけていきたいなというふうに思います。具体で何かを判断するというのはまだまだ先だと思いますが、これからの社会、新しい学び、それを支える学び舎がどうあるべきかということ、いろいろな形で発信ができればなというふうに思います。

4番、学校施設の在り方検討会という附属機関を年度末には設置したいと思えます。本格的な検討は来年度からになると思いますが、葉山全体を見てどうあるべきかというのを、専門家も交えながら検討をスタートさせたいというふうに思っています。その上で、令和7年1月、できれば町制100周年の時期までに具体的な方針を教育委員会としては公表することを目指したいと思えます。ここは少し関係者の皆さんとの議論を進めてから、どういう内容になるかというのは検討が必要かもしれませんが、教育委員会としてはできるだけ具体的に公表したいというふうに思っています。

こちらの資料なんです、町の中での議論もあって、具体的にこうした配置のエリアとか、イメージも議員の皆さんにお伝えしたらどうだということがありまして、こういった資料も盛り込んで説明をさせていただきました。課題としてはやはり面積の問題があるかと思えます。それから再整備期間中の仮設の校舎の件、コストの件、平地面積と一緒になんです、グラウンド面積がどのくらい確保

できるか。南郷中学校も葉山中学校も校庭がすごく広いです。なかなかあれだけの広さが確保できないと思いますので、そこをどう考えるかというところがあるうかと思えます。それからプールですね。プールも視察などを何度か繰り返すと、建物の屋上に設けているケースが多いかなと。敷地を取らないケースが結構目立つと思っています。この辺りもどういうものがあるか、今後の課題かと思えます。

それから、時間の目安についても少し説明をさせていただきました。具体的な取組が始まってから学校施設が出来上がるまでどのぐらいを想定してるかというところ、こちらの資料のとおり、おおむね8年間ぐらいかかるというふうに教育委員会では想定しています。この8年間を、どこをスタートに、どう張っていくかということが今後の課題だと思います。

いずれにしても、こうしたことを全体通して公の場で教育委員会と目指したいということを説明させていただいたので、今後はしばらくは利害関係人との調整というか、機運の醸成には努めたいと思えますが、折を見て、具体的な検討内容については教育委員の皆さんや町長にもご報告させていただいて、協議をさせていただければというふうに思えます。

説明は以上です。

町長) ありがとうございます。本件は今度一転してソフトからハード面になります。長柄小学校は葉山の6校の中で比較的新しいほうには入るんですけども、先ほど長谷川先生からありましたけど、ガラスの老朽化のように、老朽が著しいのは、どうも変わらない状況だということで、建て替えに向けてですね、議論を始めることになります。ポイントは、令和7年1月が町制施行100周年になりますので、そこを一つの節目と捉えようということで、今、教育委員会のほうで目下議論をさせていただいているところにあります。

ポイントとしましては、長柄小学校、サンプルとしてですね、5ページのほうに出させてもらったことで、一定建て替えのイメージが一つできたんじゃないかと思えますけれども、いずれにしても、学校の学びを止めるわけにはいきませんので、建て替える間もどのように学校を運営していくのか、どのように子どもの安全を確保して学びを止めることなくできるのかということがとても大きな課題となっております。ただ、ここには南郷中学校と長柄小学校の一貫校に向けて、また、それ以外、葉山小学校と一色小学校、上山口小学校についても併せて小中一貫校をどのように実現させるかということも議論の俎上に上げてハード面の整備を進めていきたいと思いますというふうに考えているところになります。

それでは、委員の皆様から、本件に関しましてご質問、ご意見のほう頂ければ

と思いますが、いかがでしょうか。鈴木委員、お願いします。

鈴木委員) もちろん長期で、いろんなところを詰めなきゃいけないんだけど、以前から、教育委員会としては小中一貫、小中連携を含めてだけど、南中ブロックと、葉中ブロックを基本的に検討してたわけだよ。どういうふうにするかは別にして。まだ確定じゃないけど。やっぱりその大枠の部分というか、それを先に決めて立ち上げていかないと、調整は難しいんじゃないかと僕は思ってるわけですよ。現在私が住んでる葉山マリーナ近くなんですけども、小学校は葉山小学校、中学校は南郷中学なんだよね。だから、やはりそこを2校で、2校を2ブロック制でいくのかね、極端に言うと、1校で全部まとめてしまうのかというところがある程度ね、先に絞りこまないと、そういう形に上がってこないと僕は思っているのね。これは早くやるべきだと思うしね。町長にご理解頂いていかなきゃいけないんだけど。何せ、その学区の問題だって先に解決しないことには話にならないわけですよ。当然賛否両論あります、もちろん。だけど、2校でいくとなったら、どこかで学区を切らなきゃいけない。1校でいくならいいんだよ。1校でいくなら葉山全員だから。だけど、基本的には1校というのは難しいんだろう。前から教育委員会は2校で2ブロック制を考えてきてるわけだよ。そして、どこかの学校だけを別枠で考えましょうということはやめたほうがいいよ。やっぱりそれは2校に絞って、2校体制でいくならもう基本的にそこに全部はめ込んでいくと。その中でいろいろ問題点が出たところをどういうふうに処理をしていくかというふうに考えないと、実はここはこういう事情があつてこうだから、ここはこういうふうに分けておきましょうなんていうことやってしまったら先に進まない。それこそ話が、大もとの小中一貫校というものをつくろうという趣旨が狂ってくるって僕は思ってるのね。その辺が先なんじゃないかなというふうに僕は思うんだけど。もちろん全体像をお見せしなきゃいけないのは事実なんだけど、まず、そこが第1段階としてきちっとやって、2校体制にするだけで区割りをどうするのかということもあるけど。どこから、例えば元町のこの線から切りますなんていうことを発表する必要はないんだけど、2校体制にするためには、ちょうど定数であるところで半分にほぼ切りますよということにしないことには先へ進まないと僕は思ってる。特に今、長柄と南郷との問題については、今、私が話した地区、鑑摺から元町ぐらいか、そこはもう小中連携とか小中一貫ってほとんどならないでしょう、小学校と中学違うんだから。そこはやっぱり切り込んでいかなきゃいけないんで、そこを最初からどっちにするのかというのがね。極端に言ったら、3校でも4校でもいいんだけど、僕はやっぱり2校体制というね、

前教育長の時代にそういう方向性で詰めてきてるので、私はそれを踏襲していくべきだし、踏襲したほうがいいんじゃないかなというふうにはちょっと思ってるんですけど。私の考え方です。

町長) ありがとうございます。学区の件ですけども、どうですかね。

教育総務課長) 学区の件は鈴木委員のおっしゃるとおりです。基本構想や基本計画という段階に入る前に、ある程度の規模感というか、そこに通う、通学する子どもたちの数というのをあらかじめ設定しないといけないというのがあります。ただ、学区の話から地域の議論を始めるというのは非常に危険だとも思っています。まだまだ教育委員会としては、会議室の中で宣言をしたにすぎなくて、地域の方々の中で施設一体型小中一貫校を教育委員会が、葉山町が目指すというところはまだまだ承知されていないと思います。なので、しばらくはそういうことを目指すということの説明させていただいた上で、一方で鈴木委員が言われるように、できるだけ早く学区の検討はしなければならないなど。ですので、当面は、例えば教育委員会事務局内を中心にとか、限られた形であっても、少し検討は始めたいと思います。ただ、見える検討みたいなのは、できるだけ学区は慎重にいきたいと思います。おっしゃるとおり、今は鈴木委員がお住まいの葉山マリーナの辺りから堀内900番台ぐらいまでが葉山小学校に通われて南郷中学校に行かれてるので、このエリアの方を長柄地区に最初から、小学校の段階から通っていただくというのも一つですし、規模感で言うと、それでもまだ長柄ブロックのほうが狭いので、それを今回の施設一体型の小中一貫校を機に、学区を少し見直すのかというのも少し客観的な検討は内部ではできると思うので、そういうところはしてみたいなと思います。

それから、当面は、おっしゃるとおり、2ブロックを中心に検討すべきだと私たちも思っています。ただ、一方では町長と始める意見交換会とか、様々な場面で様々な意見が出てくると思います。具体的には、上山口小学校周辺のところからも意見が出てくるかもしれません。そういうところは、頂いた意見を中心に伺いながらも、鈴木委員の心配されてる、最初からぶれるような物言いをしないというのは気をつけたいと思いますが、一方で、そこで色々出る意見も真摯に受け止めながら検討させていただければなというふうに思います。

町長) ありがとうございます。よろしいですか。

鈴木委員) 今言ったように、学区が基本だと思っていないの。まず2校体制で行くんだったら、当然のことながら学区はいじらなきゃいけない。要するに1つ上を決めてくれば下はいじらなきゃいけないという問題があるということだね。そこが大事

なので、先にこっちを2体制にするかどうか決めないうちに、ここから学区引きましようなんて、そんなばかな話あり得ないんだから。だからそこは、まず順序はどれが一番大事なのかということだと。、僕は小中連携じゃなくて、できれば小中一貫校でやりたいというふうに思ってるのね。小中一貫校でやる場合には、やっぱり2校体制だろうと。現在で言う葉中ブロックと南郷ブロックに2つに分けて2校、小中一貫校の学校を2つつくりたいと、そういう考え方が強いということだけなんです、本音はね。以上です。

町長) ありがとうございます。よろしいでしょうか。

他にいかがでしょうか。下位委員、お願いします。

下位委員) お願いします。今、鈴木委員の発言のとおり、まず2校体制なのかどうかという事はぜひ検討していただきたいのと、あと、葉山で中学校が3つになることは多分ないと思うので、そうすると、小中一貫の2つプラス、ちょっと外れたところに小学校が1校なのか、小中一貫が2つなのか、2択ぐらいしかないような気はするんですね。なので、そうなったときに、できれば小学校だけぽつんというのはあんまり望ましくないのかな。そうすると、じゃあ、2つ目の中学校…小中一貫校つくる場所も考えなきゃいけないのかなと思うんですけども、ぜひそこは前向きに検討していただければと思います。スクールバスを町で走らせるということも、なくはないですよ。そういうこともできるかもしれませんし。

学区についてなんですが、濱名課長は、濱名指導主事だった頃に、学区検討委員会やってましたよね。

学校教育課長) やってました。

下位委員) 私、そのときPTAで参加させていただいてたんですけども、三、四回ぐらい会議がある中で、結果、変えなくていいという結論になったんですよ。参加された方が意外と、それこそ鈴木委員のご自宅の近くの方とかが、いや、うち別に葉小・南郷中でもいいといった意見がそのときは多かったように記憶しています。ただ、それは兄弟がいるからとか、お兄ちゃん南郷中に行ったのに、弟は葉中かみたいな話なのかもしれません。今度はもっと長い目で見て、その辺りも踏まえて考えていくでしょうし、今の保護者の話を伺っても、やはりマリーナから葉小は遠いというふうに皆さんおっしゃってました。ただ、じゃあ長柄小が近いかというと、抜け道があるわけじゃないので、明照幼稚園付近を通っていくような感じなんでしょうけど、決して近くはないんですよ。その辺りも考えて検討していかなくちゃいけないとは思いますが。ただ、やはり鈴木委員と同意見で、小中一貫校が2つというのがベストなんだろうなというふうには思います。以上です。

町長) ありがとうございます。いかがでしょう。では、清水さん、お願いします。

清水委員) 私は教育委員に任命いただいてから2年目なんですけど、なぜ教育委員になったかという、美術の仕事を通し日本の経済、国力がどんどん下がっていっていると実感しました。日本をどうやったら盛り上がっていきけるかという、やっぱり教育が重要と思い至りました。そのタイミングで声をかけていただいたので教育委員にな就任させていただきました。今回のプランを拝見し、これからの葉山の30年後の未来をつくるには、『今』にかかっていると再確認しました。視察を2年間で2回、1つの学校に2回させていただきまされたけど。現状の建物も使えてはいるけれども、壊れているところがいっぱい、プールについては上小以外は使用できない。そういう現状が既にあります。どんどん温暖化が進んでいます。体育館は本当に暑い。その中で授業等を行っていました。プランが発表されるとそんな箱物は要らないじゃないかとかいったご意見がたくさん出てくると思います。しかし、先送りにして、10年後に始めたらまた実現するまでに10年要するわけです。そうしたら30年後の葉山ってどうなっていると思いますか。少子化で日本全体の人口が減少し、その中で葉山の就労人口及び町民を絶やさずにいくということは、子育て世代に葉山に住んでいただかなければいけない。これは明白です。そういった方たちが何を求めるかという、よりよい教育を子どもに提供できるか。暮らす場所を決める重要な選択ポイントです。大きな企業の誘致をし税収を増やすという可能性に託すのは危険です。葉山の教育、豊かな教育環境づくりを葉山町で宣言して、実際に令和7年スタートさせる。葉山の人はもちろん、それから世の中の人にも知っていただくというのが葉山町の発展、未来につながることだと思いますし、日本の発展につながることだと思います。このプランをきちんと実現するのが、今、私たちがやらなければいけないことだと胸に刻みました。ぜひ、最重要課題として町長にも取り組んでいただきたいとお願いいたします。

町長) ありがとうございます。私から少し補足として申し上げますと、先ほど虫賀課長がおっしゃっていただいたように、これから地域によって話を展開する状況になりますが、本件は学区の話と同様にですね、一般の方が私生活の中で学校がこういうふうになるんだよと言われると、私たちは負託を受けてこの仕事をしていますので、一定の専門性やあるいはいろんな情報を持って向き合うことができますが、一方で、一般生活されている方は、懐かしの自分の学校がとかですね、プールは外で、夏、2週間だけでもやるべきだというような、表現が悪いんですけど、ノスタルジーみたいな会話になってしまいますと、清水

委員がおっしゃってるような、先を見越した、プロフェッショナルとしての判断になかなか躊躇が生まれるんじゃないかというふうに我々は考えました。なので、一旦はまず町内会長にですね、こういった情報をお渡しして、地域の風土であったりとか、考え方についてご意見を頂くことをまずやろうと考えています。我々も、これは学校なので、どこかの大きな立派なプールを造りましょうとかですね、新しい図書館を造りましょうというふうな意見じゃなくて、もう公共インフラの一つだと思ってますから、必ずいつかはやらなきゃいけないものだと思っています。なので、一定の覚悟を持ってはいるところですけども、とはいえ、民意のご理解がないと進められないものでありますので、その辺を丁寧にひも解いていこうというふうに今は考えているところです。ですので、一旦はまずは町内会長宛てにご説明をしますけれども、その後地域の方々にご理解頂けるような、知識としての情報をお渡ししながらですね、一緒になって土壌を、目線を合わせて考えられるような取組をしていかなきゃいけないと考えているところです。予備知識としてお伝えさせていただきました。

清水委員) おっしゃるとおりで、本当に箱を造ることが目標ではなくて、中身だと思うので、その辺のご理解があつてこそその計画だと思いますので、ぜひ、町長が陣頭指揮を取って説明していただくと本当に進みが早いと思いますので、よろしくをお願いします。

町長) 最後のポイントは、やはり先生方の意見だと私は思っているんですが、じゃあ、一時はやったように、窓ガラスもない、壁もない教室がいいんだろうとか、机がない、机を自由に配置できるような教室がいいんだろうとか、一方で従来どおり、壁があつて音が漏れないような教室がいいんだろうとか、いろんな先生方の考えがそこにはあると思うんですね。その中のファシリテーターとしてどうするかということの議論も大きな課題だと思っていますので、従来話したような、葉山の教育にかける気持ちというのは、町民は持っていますけれども、じゃあどこにかけるのが一番、10年後、もしくは30年後、よかったね、葉山の教育でって言ってもらえるようなものがあるかというのは、ぜひお願いしたいと思っていますので、先生方のお知恵をよろしくお願ひいたします。そこにね、踏み込みたいという町民の方いっぱいいらっしゃいますので、そこは駄目だと言おうと思っています。中は先生方にしっかり作り込みで。

ほかにいかがでしょうか。小峰委員、いかがでしょう。

小峰委員) こうやって学校再整備という、いわゆるハードのところにつける構想を頂いたということは、とてもこれから先、いろんな可能性が出てくるんだなという

ふうにあります。今まで私たちは小中一貫とか連携とかというと、やはり教育内容や学校として何をするかまでしか考えが及ばない、という言い方おかしいですけど、私たちは、小中一体の学校をつくるべきだということまでなかなか言い出せないことでした。こうやって構想が出てくると、私たちこういうことを目指せるんだなという、何か自由度がすごく広がったような気がします。

こういう2校体制、小中一貫校が2つできるということについては、先ほど小学校1つだけがぼつんと取り残されてしまうようなこと、現実的には起こり得る事態になるかもしれないことですが、やはり避けなければならないというご意見もありました。でも反対に言えば、6・3制という学年のくくりをなくして、低学年から幼年学校みたいな、1年生から2年生までの学校を、例えば今だったら上山口のほうに造って、そこはいろいろと自由に通える。そこでやった教育は、今度はその小中一貫といっても、9年間ではなく、7年間の学校にしてみるとか、何かそういうことも幅広く考えられるようになるんだなという、何か自分の中で自由度が増してきて、本当に葉山らしい、新しい学校の制度というものも考えられるんじゃないかなというふうに思いました。今、私が言ったようなことはまた夢の夢なのかもしれませんが、でも、こういうハード面に手を入れられるんだ、入れてくれるんだということが示されると、もっと内容的にも自由な発想ができるんだなと、この前、虫賀課長から前もってお話をされたときにも思ったんですけど、今日改めて、町長がいらっしゃるところで、さらに具体的に事が進んでいくんだったら、葉山の学校をこれから未来志向で考えられる学校の形がいろいろあるんだらうな、みんなで話ができるんだなということがすごく期待感として持てた、大変いい場になりました。ありがとうございました。

町長) ありがとうございます。ほかにいかがでしょう。いいですか。お願いします。

教育長) ありがとうございます。教育委員会としてはもう虫賀課長がおっしゃったとおりのところで、町長も少しずつ少しずつどう実現に向けていくかというところの、戦略と戦術を一生懸命考えながら、いかに町民の方々のハレーションを小さくしながらソフトランディングして、還元していただけるようにどう落とし込んでいくのかというのが恐らく全てだと思っています。

教育委員会というよりは、教育行政ではなくて教育者として考えていくと、ソフト・ハードの部分、小峰委員がおっしゃいましたけれども、教育は恐らく社会変革によって変わっていかざるを得ないという状況に追い込まれてしまっていますので、かつてそれでよかったといった物の考え方で教育方針、教育技術等は、もう捨てなければならない。最近アンラーンという言い方をよくしますがけれど

も、いかに捨てられるかというところが一つなんです、そうなったときにソフトを変えていくということは、ハードを変えていくことで、より、どう効率化するかというところの力点が非常に大きくなる場所になると思っています。それも、ソフトを変えていくということは、いわゆる戦後教育からスタートしたとしてもですね、ここ50年以上続けてきた教育が日本にとって結果残念になってしまったと今は言っているだけの話であって、一時期はそれが隆盛を極めたわけですよ。日本はそれで今が存在しているわけですので。じゃあ、ここでもう一回、言い方はよくないですが、そこで反省する機会を頂いたわけですから、そこでソフトをもう一回作り直すというところに今来ています。

となるならば、ソフトを変えていくのであるならば、それを最大限に発揮できるハードも、ちょうどよく50年近くになって壊れかかるところに来てますから、直さざるを得ない。これ両方ともせざるを得ないが、ハード面・ソフト面、両方来たんだというふうに考えるのがやっぱり筋だと思っています。その中で、ソフトは当然様々なところで考えていくものは幾らでもできる状況にある中で、また、していいよ、しなければいけないよという社会状況を頂いたわけですが、それはしますと。一方、その中でハード面でどうしてももうもたなくなってきた、さらに言うと、学校は地域の防災拠点でもありますから、そういう中で最終的に様々な観点、これは生涯学習観点もありますし、そういうことを考えながら、学校が地域拠点になっていくためのハードづくり。当然新しい学校での、繰り返しますが、ソフトとしてのものを最大限に機能発揮できるためのハードをどうつくっていくのか。

学区の話も、実はそこあまり変わらないような気がしておりまして、今までこうであったというところの部分と、新しい物の考え方と将来像の葉山の人口比だとか、そこにどういう方々が住んでいくだろうというところの想定比もしっかりとしながら、ハード面も明確にこちら側からご提示を差し上げていくということが、まず理念形成をしていくべきだなと思っています。

ただ一方、目の前で工事が始まるという直前になれば、様々な形で、これは困るんだという話を頂くのは当たり前だと思ってますけれども、そこもですね、100%対峙してしまっ、一切お互いが引かない状況になってしまうということでない、何らかの形でうまく折り合う状況での話合いができる状況の中で順番に造っていくという形になっていけばいいかなというふうに思っています。自治体によっては、残念ながら近隣のところでも一つこういう物の考え方で造っていく中で、差し戻しをせざるを得ない状況があるというところもあるのも事実です。

ただ、それはやはり、教育行政としては、ある意味では失敗でしかないから、そうならないようにしていくために何をどうしていくのか、1個1個こつこつと皆さんの意見を聞きながら、これは町長よく言われますけども、当然必要なときには決意を持って進んでいくべきだというふうにお話をされますけど、それは必要です。ただ、そのときにも一人一人のご意見を頂きながら話を聞いて、どうしていくのかというところを考えながら進んでいくということができればいいんだろうと思います。

これも教育委員会、午前中でもお話ししたかもしれませんが、文科省はちょっと前まで、2030年の日本の将来を考えながら教育をつくろうと言ってきましたが、ここにきて、2040年を推定しながら日本の教育をつくろうと言っています。つまり、そのところを明確に頭に置きながら、こういうことも考えていくべきなんだろうなというふうに思っているところです。2040年ですから、そうなる私たちが考えていくべきところは、当然自分たちが恩恵に被るというところではないのは当たり前なんですけど、今の子どもたちが大人になったときに、自分の子どもたちが通うべき学校がどうあるべきかというところのイメージ論をしっかりと持っていていただきながら、町民の方々と議論ができればいいなというふうに、議論と言うと嫌な言い方かもしれませんが、対話ができればいいなというふうに思っています。

以上でございます。

町長) ありがとうございます。とても大きな話になりますので。この件に関しては随時、総合教育会議でもご報告頂いてですね、私たちと共に考えながら、着々と進めていきたいというふうに思っているところでございます。

ちなみに、4ページなんですけど、これからの進捗状況ですね、進捗のステップ3までありますが、ステップ1の下に学区と人口分布があります。さっきの虫賀さんの話だと、これもっと後段に入るかと思ったんですけど、そうじゃないんですか。

教育総務課長) ここは候補地を選定する中で、学校がどういう配置にあるか、具体的には南郷中と長柄を少し想定したところがあります。長柄地区の学校を堀内学区まで含まれるんなら、南郷を使うんじゃなく長柄だろうとか、そういう判断をするときに学区と人口分布という形の表現をここでは使っています。

町長) 分かりました。当然この後、町内会長にお会いすれば、先ほど鈴木委員おっしゃってましたけども、その学区の問題というのは必ず出ると思っていますので、その辺もよろしくお願いします。

教育総務課長) 鈴木委員言われるように、学区のねじれが解消する方向を目指すということははっきりと申し上げたいというふうに思います。検討を開始するというのも申し上げたいと思います。ただ、それをいつまでにみたいな話は断言はできないと思うんですが、検討は具体的にはどこかで進めるべきかなというふうに思っているのです。

いずれにしても、内部でいろいろな角度からの検討をして、外部とのやり取りに耐えられるだけの状況ができてというのが大事だと思うので、そうした資料はあらかじめ町長にも、町役場の関係者の皆さんとも、防災であるとか福祉であるとか、様々な角度からも学区を検証していただきたいと思っているのです、役場を挙げて少し議論ができればと思います。

町長) 鈴木委員、お願いします。

鈴木委員) 別に学区を検討するというのは、要するに小中一貫校じゃなくてね、小中一貫をやるために、葉山としてはこういう構想、要するに2ブロックでやろうという、その題目をちゃんと説明してあげないとまずいんじゃないの。だから、そこで、葉小に行ってるのと長柄に行ってるグループとは、南郷に行ってるということじゃなくて、小中一貫教育を目指す葉山としては、何とかその学区を切りたいんだというところが主体なんじゃないかと思うのよ。長柄と南中、それから葉中と葉小との小中一貫を分けなきゃいけない時代が来るのね、いつかは。だから、そこに向けて、学区を少し改良していくべきなんじゃないかなと僕は思ってるわけね。その題目がないのに学区だけやったって、いいようちはっていう話にどうしてもなっちゃうわけですよ。そのためには、兄が小学校葉小に行ってて、妹と弟は長柄ですよって、これなかなか親としてはオーケーしにくいじゃない、運動会も違うし、何もみんな違うんだから。だから、ある程度年数をちゃんと区切ってね、そして、その間、ある程度の例外を認めて、その兄弟が卒業したら、次からはもうこっちの学区ですよということは必要になってくるだろうけど。だからそこら辺、動かさなきゃいけない部分があるんだけど、じゃあ、なぜ今ここでそういうふうなことが言われたときの答えが大事なんです。町内会長なんて、何で今やるんだといったときに、いや、将来に向かってこういうお題目があるからやりたいんだと言わざるを得ないと思う。

教育総務課長) 先ほど長谷川校長の説明でもありましたように、南郷中・長柄小で教育目標、具体的な子どものスキルなんかも合わせられています。なので、基本は鈴木委員言われるように、小中一貫校をなぜやりたいか、目標を共有しているからであって、そこは第一だと思います。それは2ブロックやりたいというのも基本線だと

思っています。

鈴木委員) 2ブロックやると言わなくてもいいけど、少なくとも小中連携を長柄と南郷でやるので、今そういうふうに分かれたんじゃ取り残されちゃうわけだよ、葉小に行ってる子が。それは避けたいというのが基本ベースの教育の在り方なんです。

町長) 越境ってできるんですか。

教育総務課長) 移行期は他自治体でもやっていることで、ある程度学区をいじったときの一定期間は選択制みたいのを導入し、住民の意向を尊重するような形も検討はすべきだと。

町長) そうでしょうね。引っ越して学区変わっちゃうから何とかしてくれって。

教育総務課長) いっときやはり兄弟が分かれてしまうようなことは避けなきゃいけないので、何らかそういう緩和措置は検討すべきかなと思います。

教育長) 現状でも引っ越しをして、何々中に行くんだということころの事例はあるんで、そういうところの部分をおつしゃっているところの虫賀課長がおつしゃっているところの議論をしていく中のところで、鈴木委員もおつしゃっているとおり、一定の学校ができるということころの年度が明確になるまでの間は、一定のところの部分でのご家庭の意向というのを聞きながら進んでいくしかないと思うんですね。ただ、年度はこのところからは完全にこうなりますよというのは早めに話を明確に町民の方にお知らせをしていくということがやっぱり必要でしょうね。

町長) 分かりました。ほかにいかがでしょう。下位委員、お願いします。

下位委員) ちょっとここだけの話じゃなくなって、全体の話になっちゃうかもしれないんですけど、子どもにお金をかけてほしいなと思います。学校を造るのもお金かかりますし、先生増やすのもお金かかりますけど、何ていうんでしょう、先ほど清水委員もおつしゃっていましたが、子ども達が育たないと恐らく葉山の未来もないでしょうし、日本の未来もきっとないと思うので。子どもにお金かけていかないと、未来につながらないのでぜひ行政として、そういう話合いをいただけたらうれしいなというふうに思います。よろしくお願いします。

町長) 本当に、葉山の議員の方々、私たちもそうですけども、教育にお金かけることで文句言う議員さん、多分ほぼいないと思います。ただ一定、確かに、町長は若いから子どものことしか考えてないって言い方で、批判的な方、確かにいらっしゃいます。いらっしゃるのは事実ですけど、そこはしょうがないです、私はこういう仕事しているので。議員方も、年配の議員さんも別にそれに対して何もストレスも持ってなく、賛同してくれていますので、ぜひというふうに思います。

ただ、それより先立つものがあるかどうかなんです。そこはまた別の大きな問題なので。

清水委員) 町長が財政健全化をずっと頑張ってくださいています。教育長も様々な補助金の獲得を努力くださると思います。

町長) 従来から考えると大分ためたんですけど、この50億という金額を見ると、一瞬で消し飛んでしまいそうなので。そこは、公共インフラというふうになっていくしかないかなと思っています。やるからにはいいものを造りたいですから。そこは皆さんの力を結集したいと思いますけども。

他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、ハード面で大変重い話ではございましたけども、まず第一報ということで、今後私たちが出向いていく中で、また改めて皆様とお知らせすることができるでしょうし、展開をしていくといろいろな展開が現れてくると思いますから、それも課題としてお伝えしながらいきたいと思っておりますけども、進めていく覚悟だけは持ち続けたいと思っています。引き続きよろしく申し上げます。

協議事項(3) その他

町長) それでは、協議事項の2が終わりますので、続いて、3、その他に入りたいと思います。委員の皆様からその他案件ございますでしょうか。よろしいでしょうか。では、今日は長谷川校長先生と虫賀教育総務課長、お忙しいところありがとうございました。

では、協議事項は以上で終わりたいと思います。

それでは、事務局のほうにお返しいたします。

教育部長) それでは、以上をもちまして令和5年度第1回葉山町総合教育会議を閉会いたします。

次回の日程は決まり次第ご連絡いたします。

時刻は15時33分です。お疲れさまでした。